心の散歩道

先日、お正月を迎えたと思うのに、節分、そしてもう春ですね。
時の流れの速さをつくづく感じます。それに、今年は世紀末、２０世紀の終わりだと、世間では騒がれているようですが・・・。

仏教では「これで終わりだよ」と言うときに、境という字の土扁を取った文字「竟り(おわり)」という字を使います。どうして「終わり」のことを「竟」と書くかというと、経文に

弟子某甲(でしむこう)　盡未来際(じんみらいさい)　帰依仏竟(きえぶっきょう)　帰依法竟(きえほうきょう)　帰依僧竟(きえそうきょう)

とあります。

その意味は、『ここに、仏の弟子となった私は、いつまでも、私の師である仏さまに従いつくします。そして、仏さまの教えをきわめつくします。そして、仏さまの教えを伝える師を尊敬しつくします。』ということです。
竟りというのは、「きわめつくして、とどのつまり」という意味です。
「竟」という字に土へんがつくと、あなたの土地のとどのつまり、隣の土地のとどのつまりが接した所「境」という字になります。
では、仏さまや仏さまの教えをきわめつくすということは、どの様なことでしょうか？　それは、仏さまや、仏さまの教えを「とことん信じきる」ということではないでしょうか。

この宇宙にある、地球も太陽も、人間も動物も植物も、みんな「いのち」を持っています。いのちが生きている不思議な法則のことを「仏の教え」、「物の道理」というのでしょう。しかし、現在は末法の世だとも言われます。それは、あまりにも、人間欲（人間優位の一方的な考え）の世界だからです。

私たちは、この宇宙の元で生かさせていただいていることを知りつくすべきではないでしょうか。

私の好きな詩を記載します。

死んでゆくものがある　　生まれてくるものがある
死ぬことによって他を生かすことのできるものもある
虫たちも草花たちも動物たちも作物も魚も鳥たちも
みな雨音に耳をすまして　休息の時
人間は生きものたちの死によって
生かされているのですね
どんな生命もお互いに生かし生かされているのですね